寒い冬を暖炉(Cheminée)で

こちらでは、ほとんどの家に暖炉が備えられていますが、皆様お使いでしょうか？私も上手な使い方がわからず困っていたところ、ご近所の元ＵＬＢ哲学教授Monsieur MORTIERが、手ほどきしてくださいました。ご参考までに、ひとつの例として紹介させていただきます。

まず、これだけ揃えましょう

①薪置き台 panier a bûches

②はさみ pince

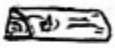
③ディフェンス

熱い部分に触れるのを防ぐだけでなく、薪が外に転がり出るのを止める役目もします。

★以上のものは、暖炉ショップ・家具店・ＢＲＩＣＯなどで売っています。

④古新聞
⑤木くず

⑥薪 bûches



⑦固形燃料 allume-feu (combustible solide)

⑧長いマッチ

松ぼっくりもよいのですが弾けることがあるので注意！

半円形にカットされたものが扱いやすい。

よく乾いたものを使ってください

ex. Zipライター

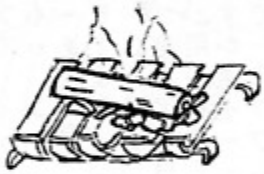
全長約３０ｃｍ。この方が安全です。

★以上のものは、スーパーでも購入可。

さあ、火をつけてみましょう

Ⅰ．暖炉に薪置き台をセットし、その上にくしゃくしゃにした新聞紙を４～５枚置き、木くずを１～２つかみほどまいておきます。

Ⅱ．長いマッチでじっくり点火し、炎が広がったところで薪を１本、斜めに置きます。



燃え方が足りないときには、固形燃料をひとつ、はさみで入れます。これは決して手でやらないこと。急に火の勢いが強くなり、ヤケドする危険があります。

Ⅲ．１本目の薪に十分、火がまわってきたところで２本目…というふうに、次々×字に交差させるように置いていきます。

《コツ》下から十分に空気を送ること。
その為、新聞紙も軽くくしゃくしゃにする、薪も交差させておくなどの工夫をします。

《注意》最後に火が燃えつきるまで見とどけましょう！　火の用心！！
あせって水などをかけると、かえって後の始末が面倒になりますよ。

やっぱり暖炉って素敵だと思う

例えば、来客に備えて暖炉を、という時にはお客様ご到着の３０分前には用意を始めます。そうしておけば、美しい炎と十分な暖かさがプレゼントできるのです。長く燃え続けさせるために、薪をタイミングよく足していくことも必要です。後片付けするのもゆっくり火が鎮まるのを待って、道具が十分に冷えてから……　こうして書くと、ずいぶん面倒な作業で億劫に思われるでしょう。忙しい毎日を過ごす日本人には向かないかもしれません。
でも、あなたのおうちの煙突からもくもく、のんびりと、白いけむりがたちのぼっているところをちょっと想像してみてください。
ヨーロッパで暖炉を楽しむ…心と時間にゆとりがあればこそできる、最高の贅沢ではないでしょうか。ここに住んでいなければ味わえないこの楽しみ、始めてみれば、きっとあなたも暖炉の魅力の虜になるはずです。